

# SHIN CLUB 266

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「そだちのシェアステーション・つぼみ」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

## みんなが、みんなの子どもを育てる

写真は、東京都清瀬市に竣工した児童養護施設と地域の子どもたちのための地域センターです。西武池袋線「清瀬」駅は池袋駅からおよそ電車で3, 40分のところにあり、駅前から南西にのびた商店街は昭和時代を思い出させる肉屋や八百屋、飲食店が並び、地元住民が行き交います。商店街を通り抜け、そこからのどかな住宅街を5分ほど歩いたところが今回の計画地です。

社会福祉法人「子供の家」は1949年に戦災孤児の受け入れのため、ここ清瀬市松山に設立されました。その役割を終えた後も「子どもの貧困」や「子どもへの虐待」など現代社会に絶えない問題により、今まで多くの子どもたちがここで生活し、巣立ち、ときにはふらっと帰る場として受け入れ続け現在に至ります。

ホール・事務所・会議室などがある建物の先にはグループごとに生活する2階建ての生活棟が建ち並びます。2013年に現早川悟司施設長が副施設長に着任したのを機に同じ敷地内に地域の子どもたちに開けた地域センターの建築計画がスタートしました。そして8年ほどの月日を経て2022年2月にショートステイの受け入れがスタートし、4月には「そだちのシェアステーション・つぼみ」が開所いたしました。

児童養護施設として、また子どもたちにとってどのような建物が理想なのか、加藤前理事長の作成したプランを基に江川修己現理事長が練り直したものが今回の計画の道しるべとなりました。これまで長期滞在と短期滞在の子どもたちが同じ建物で生活していました

が、今では清瀬市・東久留米市・豊島区からショートステイの受け入れをしていることもあり子どもたちの人数が増え、今回の計画の建物2階に移転・拡充されることとなりました。

「そだちのシェアステーション・つぼみ」は日本財団の「子ども第三の居場所」の助成事業です。この事業は家庭の抱える困難が複雑になり、地域のつながりが希薄になるなか、すべての子どもたちが安心して過ごせる環境で将来の自立に向けて生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を全国に広げ、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指しています。一昔前までは当たり前だった、地域の人たちとのつながりや「お互いさま」の関係が核家族化や少子化、はたまた社会経済状況により変化してきました。それと同時に児童養護施設のあり方も見直され、効率重視の大舎制から中舎制、そして家庭環境により近くなるようにと変化してきました。

「そだちのシェアステーション・つぼみ」という施設名からは、子どもたちとの関わりかたもこれまでの「サポート」から「シェア」へ、これがニュースタンダードとなるようにという未来への希望を感じます。また、オリンピックのエンブレムをデザインした野老朝雄氏の手がけた施設のロゴマークは、広がり・つぼみ・未来を表しています。子どもたちにとって安心して過ごせる居場所とはどのような環境で、どのように地域とのつながりが生まれる計画になったのかをご紹介します。

そだちのシェアステーション・つぼみ



2階学習室に上がると迫る屋根の湾曲を体感する



玄関。奥の和室横の開口部を抜けると遊具のある広場に通じる



サッシと屋根の隙間はすべて形が異なる



学習室。トップライトから青空がのぞく



テラス。洗濯物を干すため風通しよく、かつ視線を遮る



長い廊下を挟んで北側に個室が並ぶ

「出来上がった時に少し古い」くらいでちょうどいい

このあたりは近くを流れる荒川水系柳瀬川支流の空堀川（からぼりがわ）の洪水時に水位が上がる地域である。ハザードマップを見ながら検討し、斜線の問題などをクリアした上で1階のフロアレベルを600mmから800mm上げることにした。前面道路からエントランスまではなだらかなスロープと階段を設け、その手前のウッドデッキは子どもたちの発想でさまざまな使い方ができるように、一部を上げてステージのようにしたり、掘り込みを作った。

プランの打合せ当初、2階のショートステイで利用する子どもの個室が南にあるべきか、北にあるべきかを話し合い、設計者としては、はじめ南側に配置していたが、個室は北側でのご意見をいただいた。子どもたちを部屋にこもりきりにしない、リビングに子どもたちが常にいることが大切で、パブリックな部分を優先して快適にするよう南側に配置し採光などを考慮した。また、室内には意図的に大人の目が届かないと感じさせる場所をつくり、管理する側が把握し、適度に子どもが一人になれる場所をつくりだした。ともすれば平面図での打合せは危険なところ探しになってしまうので、大小さまざまな模型をつくり空間の全体像を議論し、検討した。

南側の大屋根は新古を超えて変わらない、神社や仏閣の屋根から着想しており、交流スペースとデッキスペースとの関係をスタディしていくなかで今のかたちのやわらかい反りのあるワッフル構造となった。

内外壁に用いた古材は、経年変化と共に風合いを楽しむことができる。工業製品と違い製造中止などが無いので、材種が異なっても部分的に張り替えることが可能であり、色味の違いも味になる。そうした意味では工業製品よりも長寿命といえる。出来上がったときに少し古く感じるくらいでちょうどいい。人も建物も、「時」とともに味が出る方が魅力的だろう。

子どもたちの手に触る部分はできるだけ無垢なものを使うことや、「時代が経っても変化を楽しめる建築」という提案を、理事長や施設長をはじめ、関係する皆さんの理解と協力のおかげで実現することができたことに心から感謝している。



外壁古材

(伊藤潤一建築都市設計事務所 / 伊藤潤一氏 談)

所在地：清瀬市  
 構造：木造 規模：地上2階  
 用途：寄宿舍・児童福祉施設  
 設計・監理：伊藤潤一+伊藤潤一建築都市設計事務所  
 構造設計：多田脩二構造設計事務所  
 設備設計：テーテンス事務所  
 木架構（屋根）：シエルター  
 施工：鯨津・堀江・山本  
 竣工：2022年3月 撮影：アック東京



東側外観。桜やプラタナスなどの木々のシルエットが外壁と調和する

Satoshi  
HayakawaJun'ichi  
Ito

今月はp1・2でご紹介した「そだちのシェアステーション・つぼみ」の事業主である社会福祉法人「子供の家」施設長の早川悟司氏と設計・監理された伊藤潤一建築都市設計事務所の伊藤潤一氏にお話を伺いました。

ー 245号で共同住宅「TREES」のインタビューで伊藤さんに伺った児童養護施設が今回の計画のお隣にある「子供の家」改修計画ですね。

早川：私は10年以上前に都心の違う施設にいたのですが、そこはいわゆる大舎制で廊下にそれぞれ部屋が並んでいて、食事のときにとても大きな食堂にみんなが集まりご飯を食べる学生寮のような施設でした。大勢を効率的に生活させるため、いたるところに表が貼ってあり、TVも時間や何を観るかが決められている不自由な生活であったため、幼児、女子、男子の3つのユニットに分け、それぞれバストイレをつけてどれも家庭的なケアができるよう全面リノベーションをしました。そのときに主に海外で住居支援をしているとある方に施設の生活環境を改善したいと相談し伊藤さんを紹介していただきました。伊藤さんとお話した時に風の流れがどうか、光の入り方がどうか生活する人の立場に立ってお話されたのが新鮮でお願いすることにしました。

その後「子供の家」に着任した当時、小規模単位にはなっていたものの、20年経ち老朽化が激しくて不安定な子どもも多く、大人は疲弊してる状況でした。色々立て直しを図るなか、建物を子どもの生活の場として安らげる場所にするため改修を計画しました。

伊藤：その頃早川さんにお声がけいただいて、修繕計画に参画させてもらいました。その過程で子どもたちにはワークショップに参加してもらいました。完成は2015年。限られた予算の中どのようにすれば子どもたちの安らぐ家になるのか検討し、三角屋根の駐輪場や、家の形の本棚、掲示板やTVボードなど楽しく生活できるように考えました。

早川：子どもたちからの評判も良かったです。その当時から、児童養護施設の子どもたちだけでなく、地域の子どもたちが通って来られるような計画を考えていました。とはいえ、予算もなく、日本財団に相談していましたが、当時の財団は里親を増やすことに力を入

れていて話は進みませんでした。子どもの貧困などがクローズアップされ第3の居場所事業が2015年頃からTVコマーシャルされて、今までやりたいと訴えていたことがようやくスタートしました。途中計画が滞っていた時期もありましたが、3年ほど前に現江川理事長が着任し地域の子どもたちにもひらけた施設という計画に賛同し、また進み出しました。

伊藤：早川さんからちょうど2年前にお声がかかりました。前理事長の作成したプランを基に江川理事長の練り直したものをいただき、そちらを道しるべに打合せが始まりました。

早川：ショートステイの規模も大きくなり、こちらの計画の2階部分に移すことになりました。

伊藤：子どもたちを監視するのではなく、管理する側が危険の度合いを把握できる多様なスペースをちりばめることを考えました。打ち合わせでは、ドラえもんの広場や押し入れなども話題になりましたね。あちらこちらに作っています。

早川：目線をどこにもっていくかなんですよね。これまでの児童養護施設は管理者側の利便性を考えていて作られてきたと思います。でもそれは子どもからしてみたら、こんなつまらないものはない。発想をシフトするという意味で、モデルになると思います。今後いつかカフェや駄菓子屋さんを1階に開けたら、なども考えていますが、コロナ禍でいろいろと出来なくなったこともあります。慎重にスタートしなさいということなのかもしれません。まずは地域の人たちとの関係を我々が作っていくのが大事だと思っています。ただ、地域住民とつながることがメリットばかりではなく、ここに同じ小学校の子どもたちが出入りしていると地域で孤立した不登校の子どもが来づらくなることもあるので、その辺りは丁寧な調整が必要かと思っています。

伊藤：コロナによって世の中全体が第3、第4の居場所を必要なことに気づき、考え方がシフトするきっかけになりました。大人だけでなく、子どもの多様な居場所づくりは社会的な喫緊の課題です。

ー本日はありがとうございました。

## 早川 悟司 (はやかわ さとし)

1969年 千葉県生まれ  
1996年 日本福祉大学社会福祉I部卒業  
社会福祉法人 共生会 入職  
1997年 社会福祉法人 愛隣会 入職  
2008年 日本福祉大学大学院博士前期課程修了  
2013年 社会福祉法人 子供の家 副施設長  
2014年 同・施設長  
2017年 立教大学大学院博士後期課程満期退学

共著『子どもの未来をあきらめない ー施設で育った子どもの自立支援ー』明石書店、他



木の優しさを活かした個室



階段下を利用したスペースは子どもが一人になれる大切な空間

## 伊藤 潤一 (いとう じゅんいち)

1971年 北海道生まれ  
1996年 工学院大学卒業  
1999年 東京藝術大学大学院修了  
1999年 Cesar Pelli & Associates Japan 入所  
2002年 伊藤潤一建築都市設計事務所 設立  
2008年 東京大学大学院博士課程 単位取得満期退学  
2017年 博士(工学) 東京大学

## ■受賞歴

2016年 JCD デザインアワード金賞 (東小松川デザインサービス)  
2017年 JIA ゴールデンキューブ賞特別賞 (子供の家)  
2021年 JIA 優秀作品選 グッドデザイン賞 (TREES)  
2022年 千葉県建築文化賞 優秀賞 (クレパスノイエ)

TOPICS/INFORMATION

2022 年度新入社員紹介

4月2日土曜日、この日おこなわれた社内全体会議で、新入社員は現場の社員たちと入社後初めてとなる顔合わせをおこない、その後社長の岩本より辞令が授与されました。



■菅野 心平 (すがの しんぺい)  
多摩美術大学  
美術学部  
環境デザイン学科

早く皆様のお力になれるよう日々精進してまいります。  
よろしくお願いいたします。



■齋藤 歩美 (さいとう あゆみ)  
立正大学  
心理学部  
対人・社会心理学科

知識や経験がないからこそ、新鮮な気持ちを楽しみながら、多くを学び成長していきたいです。  
これからどうぞよろしくお願いいたします。

「2022 年度 株式会社辰 安全衛生協会の安全大会開催」 2022 年 4 月 19 日 - フォーラムエイト -

4月19日、フォーラムエイトにおいて2022年度辰安全衛生協会の安全大会が開催されました。安全衛生協会とは、辰と協力会社の皆さまが無事故無災害を目指す活動をおこなうものです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、2020年度開催を最後におよそ2年ぶりの開催となりました。会場入場時に検温、消毒、場内は換気をおこない感染予防の徹底、また通常3部構成での内容だったところを2部構成に縮小しての開催です。



来賓挨拶：麦島悦司様

はじめに小関邦昭安全衛生協会会長の挨拶、夏井安全衛生委員長の報告に続き、来賓の麦島悦司(株)麦島建設代表取締役、古賀智道池田建設(株)代表取締役の挨拶をいただきました。

第1部は、安全パトロールなどの活動報告、決算報告、次年度活動計画・予算案承認、新年度役員改定(今年は全役員重任)に続き、通例に従い、安全作業所の表彰、安全標語入賞作品紹介がおこなわれました。社員代表による安全宣言と最優秀賞を受賞した標語を唱和し、終了しました。



協会社様も参加しての安全大会

続く第2部では今期の業績、今後のビジョンについて、(株)辰岩本代表取締役より数字を挙げての報告がおこなわれ、目標達成への改善に向けて、協力業者様に更なる連携をお願いしました。その後、優良協会社、匠の発表がおこなわれ、各部署の現況報告と営業褒賞受賞がおこなわれました。



■安全作業所表彰  
・(仮称)神宮前3丁目ビル新築工事  
・(仮称)苑田邸新築工事



■安全スローガン入賞表彰  
・最優秀賞(株)辰 岸崎将大 作  
「時が変わればルールも変わる  
使って慣れようフルハーネス」



■優良協会社表彰  
・アイバ工業株式会社  
・玉屋硝子工業株式会社  
・有限会社センチュリーコトフキ



■「匠」表彰  
・中川秀雄氏/株式会社横田工業  
・上野光弘氏/株式会社古市タイル工業所



■営業褒章表彰  
・有限会社福田建具店  
・東邦レオ株式会社

「YCM」新築工事 地鎮祭 2022 年 3 月 1 日



交差点のシンボルとなる建築を安全第一で建てさせていただきます。

構造 / 規模: RC造 / 地上3階  
用途: 店舗併用共同住宅  
設計: (株)フロリアンブッシュ建築設計事務所  
施工担当: 鯨津・富樫  
完成予定: 2022年12月

「はつせ三田」が第47回東京建築賞 最優秀賞を受賞いたしました。

SHINCLUB248号で紹介いたしました「はつせ三田」が、東京建築賞共同住宅部門で最優秀賞を受賞いたしました。一般社団法人東京都建築士事務所協会の会報誌「コア東京」に掲載されています。

【はつせ三田】  
構造: RC造  
規模: 地下1階・地上7階  
用途: 共同住宅  
設計: 井原正揮・井原佳代 / ihrmk  
竣工: 2019年12月  
撮影: 稲継泰介



編集後記

・最近暖かい日が多くなりました。熱中症に気を付けてこまめな水分補給と、ときにはマスクを少し外しての小休憩をとり、夏本番に向けて体調を整えていきたいですね。

(株)辰通信 Vol.266 発行日2022年5月10日  
編集人: 本間夏来/村上由衣 発行人: 岩本健寿  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570  
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。  
バックナンバーもPDFで掲載しています。  
スマホはこちらから →

